

月報だより

TEL: 048-467-9414

FAX: 048-467-4078

ebisu@postman.riken.go.jp

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で gpjimu@tenmon.or.jp 宛、なお、原稿も必ず 0422-31-5487迄 Fax でお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など)
2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地
3. 専門分野
4. 職務内容・担当科目
5. (1) 着任時期, (2) 任期
6. 応募資格
7. 提出書類
8. 応募締切・受付期間
9. (1) 提出先, (2) 問合せ先
10. 応募上の注意
11. その他 (待遇など)

理化学研究所研究員公募

1. 研究員 1 名
2. (1) 情報基盤研究部イメージ情報技術開発室
(2) 埼玉県和光市広沢 2-1
3. 超伝導体を用いた光量子・放射線検出器の開発及び応用研究
4. 画像データ処理及び可視化を含む光量子及び放射線等の検出システムについての開発研究及び応用研究。超伝導体検出器を基礎とした研究を想定しているが、基礎技術開発を基盤として新たな実験的科学研究分野を開拓する意欲のある方であれば、これまでの専門分野を問わない。
5. (1) 2000 年 4 月 1 日以降できるだけ早い時期。
(2) なし。
6. 2000 年 4 月 1 日時点で 35 歳以下の博士号取得者または取得予定者
7. (1) 履歴書 (写真添付), (2) 業績リスト, (3) 主要論文の別刷, (4) これまでの研究概要と今後の抱負 (1000 字程度), (5) 推薦書または意見書 1 通 (健康に関する所見を含む)
8. 2000 年 1 月 24 日 (月) 必着
9. (1)(2) 〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1
理化学研究所
情報基盤研究部 イメージ情報技術開発室
戎崎俊一

10. 「研究員応募書類在中」と朱書き簡易書留若しくは直接持参すること。
11. 理化学研究所規定による研究員 (定員)

ハワイ観測所観測支援研究員

1. ハワイ観測所観測支援研究員 (若干名)
国立天文台ハワイ観測所にて、特定の観測装置 (1~2 個) を担当して観測・解析研究支援を行い、またそれらの観測装置の性能維持・効率的運用を図る。(以上で 50%) と同時に、自身の研究 (40%) にも積極的に取り組んで先進的な成果を挙げる若手研究者を求めます。
2. (1) 国立天文台ハワイ観測所
(2) アメリカ合衆国ハワイ州ヒロ、およびマウナケア山頂すばる望遠鏡関連施設。
3. 天文学及び関連分野
5. (1) 決定後できるだけ早い時期。
(2) 3 年を基本とするが、任期は延長可能。アメリカ合衆国での労働許可を有さない場合には、ビザの制限で 6 年が限度となる場合がある。
6. 大学院博士課程修了 (平成 11 年度末修了予定も可)、又はそれと同等の学力を持つ者。普通自動車免許を有し、高度 4200 m にて勤務可能なこと。
7. J-1. 履歴書 (写真付き), J-2. 研究歴 J-3. 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと), J-4. 主要論文の別刷り又はコピー, J-5. 研究計画書 (希望受入教官名を明記のこと), J-6. 推薦書 (ある場合は添付), J-7. 大学院または大学の修了/卒業証明書のコピー (学位記のコピーでも可)
以下は英文にてご用意下さい。
E-1. 表紙に職種識別番号「700076」を記入のこと (英文), E-2. 英文の履歴書 (職歴がある場合には給与も記載), E-3. 本人について意見を述べられる人 3 名の氏名と連絡先電話番号 (英文)
8. 1999 年 12 月 15 日必着
9. (1) Prof. Norio Kaifu, Director, Subaru Telescope, NAOJ, 650 North A'ohoku Place, Hilo, HI 96720, USA
(2) 国立天文台ハワイ観測所教授 林 正彦
Tel: +1-808-934-5071
E-mail: masa@subaru.naoj.org
10. 封筒の表に「国立天文台ハワイ観測所観測支援研究員応募書類在中」と朱記し、上記ハワイ観測所長 (9-1) あてに送付すること。
11. ハワイ大学研究公社 (RCUH) を通じた常勤雇用となります。

ハワイ観測所装置担当ソフトウェア技師

1. ハワイ観測所装置担当ソフトウェア技師 (1名)
2. (1) 国立天文台ハワイ観測所
(2) アメリカ合衆国ハワイ州ヒロ, およびマウナケア山頂すばる望遠鏡関連施設.
3. 天文学, 計算機科学及び関連分野
4. 国立天文台ハワイ観測所にて波面補償光学装置 (Subaru Adaptive Optics) を含む観測装置の制御ソフトウェアの整備, 望遠鏡制御システムとのインタフェースソフトウェアの製作, 観測装置の利用者インタフェースの製作, 及び各種観測装置関連ソフトウェアのドキュメンテーションを担当するソフトウェア技師で, 天文機器を含む実験装置のソフトウェア製作の経験が数年以上ある人を求めます.
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
(2) 特に制限はないが, アメリカ合衆国での労働許可条件により, 3年ないしは6年が限度となる場合がある.
6. 大学学部卒業相当. 修士課程, 博士課程での研究は経験年数として算定される場合がある. 普通自動車免許を有し, 高度4200 mにて勤務可能なこと
7. 日本語書類
J-1. 履歴書 (写真付き), J-2. 研究歴または職歴, J-3. 推薦書 (ある場合には添付), J-4. 大学または大学院の修了/卒業証明書のコピー (学位記のコピーでも可) 英文書類
E-1. 表紙に職種識別番号「99321」を記入のこと,
E-2. 英文の履歴書 (職歴が或る場合には給与も記入),
E-3. 本人について意見を述べられる人3名の氏名と連絡先
8. 1999年12月15日必着
9. (1) Prof. Norio Kaifu, Director, Subaru Telescope, NAOJ, 650 North A'ohoku Place, Hilo, HI 96720 USA
(2) 国立天文台ハワイ観測教授 西村徹郎
Tel: +1(808)934-5085
E-mail: nishimura@subaru.naoj.org
10. 封筒の表に「国立天文台ハワイ観測所装置担当ソフトウェア技師応募書類材中」と朱記し, 上記ハワイ観測所長 (9-(1)) あてに送付すること.
11. ハワイ大学研究公社 (RCUH) を通した常勤雇用となります.

九州大学大学院理学研究科助教授公募

1. 助教授 1名
2. (1) 基礎粒子系科学専攻粒子宇宙論大講座
(2) 福岡市中央区六本松4-2-1
3. 広い意味での素粒子, 原子核, 宇宙物理, 及びそれらの境界領域に関係する理論.
4. 六本松地区に所属し物理学関連の全学共通教育, 学部教育および大学院教育を担当. 現在は, 素粒子と原子核物理は箱崎地区, 宇宙物理は六本松地区に研究グループがある.
5. (1) 2000年5月31日以前のできるだけ早い時期.
6. 博士号を有し, 健康で研究・教育に意欲的な方.
7. ○履歴書 ○研究業績リスト, ○現在までの研究概要, ○研究計画と教育に対する抱負, ○主要論文5編以内の別刷り, ○推薦書または本人について照会可能な方2名の氏名と連絡先
8. 2000年1月7日(金)必着
9. (1) 〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1
九州大学大学院・基礎粒子系科学専攻・粒子宇宙論講座 (九州大学六本松地区物理学教室)
橋本正章
(2) 橋本正章 電話/Fax: 092-726-4738
hashi@gemini.rc.kyushu-u.ac.jp
10. 封筒に「応募書類在中」と朱書きし書留 (簡易書留も可) で送付のこと.
11. 当専攻の詳細は <http://www.phys.kyushu-u.ac.jp/> と <http://www.ofc.kyushu-u.ac.jp/kyokandb/> 参照.

東京都立科学技術大学
専任教員の公募について

1. 助教授 1名.
2. 一般教育自然系.
3. 非線形物理学 (プラズマ, 核融合, 宇宙物理, 生体物理等も含む) または 物性物理学. 理論系・実験系を問わない. 担当科目は物理学の基礎科目および研究分野に関連した大学院の専攻科目.
5. (1) 2001年4月1日, (2) 63歳定年.
6. 博士の学位を有し, 大学院博士課程の研究指導を担当できる方が望ましい. 着任時の年齢が40才以下の方が望ましい.
7. 履歴書 (写真貼付), 業績リスト, 今までの研究概要 (約2,000字), 着任後の教育・研究計画と抱負 (約1,000字), 主要論文の別刷り5編を各4部 (コピーも可)

- 8. 2000年1月31日.
- 9. (1) 〒191-0065 東京都日野市旭が丘6-6
東京都立科学技術大学
自然系主任 南部充宏
TEL: 042-585-8623
- 10. 「物理教員応募書類」と朱書し、書留で送付のこと.
- 11. (待遇) 東京都関係規定による.

研究助成

平成12年度宇宙環境利用に関する地上研究 公募のご案内

国際宇宙ステーションの宇宙における組立が昨年11月から開始され、本格的な宇宙環境を利用する時代を迎えようとしております。宇宙環境では、微小重力や高真空等地上では得がたい環境の下で、実験を実施することができます。我が国は、国際宇宙ステーション計画に独自の実験棟「きぼう」をもって参加しており、今後、このような宇宙環境を利用する機会が飛躍的に増大することになります。一方、地上での広範な分野の研究を宇宙環境を利用する実験に結びつけ、更には具体的な宇宙実験の提案・実施に至るまで地上における関連研究の蓄積が必要です。本制度は、このように「きぼう」を中心とした宇宙環境を利用する準備段階として、幅広い分野の研究者に研究機会を提供し、宇宙環境利用に関連する地上研究を推進することを目的としています。

■公募制度の概要

大学、国立試験研究機関、民間企業などの研究者の方々を対象に幅広く研究テーマを募集します。

●応募資格

応募者の国籍、所属機関の所在地(国内外)は問いませんが、日本語による応募及び面接に対応できる語学力を必要とします。

●公募対象研究分野

微小重力科学、生物科学、バイオメディカル、宇宙医学、宇宙科学、地球科学、宇宙利用技術開発の7分野

●研究費、研究期間

- ・フェーズ(特)研究(A) 研究費：3千万円以下/年
研究期間：1～3年
- ・フェーズ(特)研究(B) 研究費：6百万円以下/年
研究期間：1～3年
- ・フェーズ(特)研究(B) 萌芽的研究 研究費：150万円以下/年 研究期間：1年
- ・フェーズ(臨)研究 研究費：1千万円程度～1億円以下/年 研究期間：3年

●選定

財団法人日本宇宙フォーラム内に、有識者によって構成される委員会を設置し、応募された研究テーマの選定等を行います。

●研究形態

研究形態としては、委託研究(大学、企業)、共同研究(国立研究所)、招聘研究の形態をとります。

●実験施設、試験施設の提供

研究の必要に応じて調整の上、落下塔、航空機の微小重力模擬実験施設等の利用機会を提供いたします。

●スケジュール

- ・応募受付締め切り：平成12年2月1日(火)消印有効
- ・研究開始：平成12年7月～

●説明会の開催

本制度の内容、応募にあたっての手続き等についての説明会を以下のように開催します。

・TFTホール 12月13日(月)14:00～16:00 東京都江東区有明3-1 TFTビル 電話：03-5530-5010
・東北大学流体科学研究所 2号館 大講義室 12月17日(金)14:00～16:00 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1 電話：090-2335-2786
・(財)大阪科学技術センター 12月20日(月)14:00～16:00 大阪府大阪市西区靱本町1-8-4 電話：06-6443-5314
・九州大学創立50周年記念講堂 12月21日(火)14:00～16:00 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 電話：090-2335-2786

注記：上記事項については、12月以降に詳細な応募要領等を下記ホームページに掲載する予定です。

●問い合わせ先

財団法人日本宇宙フォーラム
公募研究推進部 募集担当
TEL: 03-3459-1653
FAX: 03-5470-8426
URL: <http://www.homepage.co.jp/jsforum>
E-mail: koubo@jsforum.or.jp

(財)天文学振興財団 平成12年度 研究助成公募

当財団では、国立天文台の事業支援等を通じて天文学の振興を図っております。当財団の平成11年度の研究助成は、川端弘治(東北大)及び戸次賢治(東北大)の

2氏2件に対して計194万円を交付しました。

平成12年度の研究助成希望者を下記の要領で公募します。

平成11年11月15日

(財)天文学振興財団 理事長 古在由秀

1. 公募種目

(1) 研究助成

a. 対象：天文学に関する優れた研究活動を行うおととする個人又は団体の代表者、原則として35才以下

b. 助成：総額200万円とし、助成件数は1～2件程度

(2) 国際交流に対する助成

a. 対象：天文学に関する海外での国際交流活動(1ヵ月以内)に平成12年4月以降参加する研究者

b. 助成：派遣に要する往復航空賃及び滞在費の一部(実績平均1件当たり17万円程度)とし、助成件数は数件程度

(3) 国際研究会参加に対する助成

a. 対象：平成12年4月以降に海外で開催される天文学に関する国際研究会(10日以内)に参加、発表する研究者

b. 助成：派遣に要する往復航空賃(実績平均1件当たり15万円程度)とし、助成件数は数件程度

2. 申込期限：(1)は平成12年1月末日

(2)(3)は平成12年5月末日、9月末日、平成13年1月末日(計3回)

3. 選考結果：選考委員会で審査の上、採択の可否については、各申込期限の約1ヵ月後に文書で通知します。

4. 報告：研究助成は、年度末、それ以外の助成は、帰国後1ヵ月以内に報告書を提出して頂きます。

5. 申請：申請書は事務室あてに請求して下さい。

6. 問い合わせ先：(財)天文学振興財団 事務室

〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台内
TEL: 0422-34-8801
FAX: 0422-34-4053

演は1件であった。今回の年会参加者は678名と盛況で、山岡均氏を中心とする九州大学の方々の努力で順調に行われた。各会場の座長は次の方々をお願いした。

10月7日		10月8日		10月9日	
10:00-12:00	13:00-15:00	9:00-11:00	13:00-15:00	9:00-11:00	13:00-15:00
A：花輪知幸	犬塚修一郎	富阪幸治	林正彦	—	—
B：松田卓也	山縣朋彦	立松健一	中川貴雄	砂田和良	芝井広
C：河合誠之	加藤太一	松元亮治	鈴木知治	尾中敬	茂山俊和
D：舞原俊憲	菅井肇	三好真	有本信雄	吉岡諭	須藤靖
E：花岡庸一郎	柴崎清登	原弘久	小島正宜	柴田一成	福江純
F：森田耕一郎	泉浦秀行	高野秀路	西尾正則	船渡陽子	布施哲治
G：梶野敏貴	出口修至	太田耕司	郷田直輝	牧島一夫	家正則
H：山本一博	杉山直	大谷知行	小川原嘉明	石崎欣尚	鹿野良平

〈記者会見〉

秋季年会の10月6日午後1時30分から、九州大学で記者会見を行い、次のトピックスについて解説した。5社の報道機関の出席があった。

(1) 銀河の爆発的星形成の証拠か — アンモニア分子でわかった過去の低温度時代 —
高野秀路(国立天文台野辺山)
中井直正(国立天文台野辺山)
川口建太郎(岡山大学理学部)
鷹野敏明(千葉大自然科学)

講演番号：R11a

(2) 銀河系の誕生直後に生まれた非常に古い星を偶然発見 — 宇宙進化論にも影響か —
川口美紀(九州大学理学研究科)
山岡均(九州大学理学研究科)
鳴沢真也(兵庫県立西はりま天文台)
石田俊人(兵庫県立西はりま天文台)

講演番号：J02a

(3) X線で探るパルサー誕生の謎 — パルサー誕生当初の周期を決める —
鳥居研一(宇宙開発事業団)
河合誠之(理化学研究所)
常深博(大阪大学)
堂谷忠靖(宇宙科学研究所)
満田和久(宇宙科学研究所)
衣笠健三(ぐんま天文台)
斎藤芳隆(宇宙科学研究所)
柴田晋平(山形大学理学部)

講演番号：N11b

〈通常総会〉

1999年(平成11年)10月8日(金)17:00～18:20
於：九州大学六本松キャンパス 新一号館 N110教室
議長：尾崎洋二

議事に先立ち出席者数の確認がなされた。事前投票総

会務案内

日本天文学会 1999年秋季年会報告

1999年秋季年会は10月7日(木)～10月9日(土)の3日間、九州大学六本松キャンパスの8会場を使って開催された。口頭講演が309件、ポスター講演が200件あり、合計で509講演であった。なお、ポストデッドライン講

数は272, 総会出席者は153である。出席者のうちで事前投票をした16人は, 事前投票の方を無効とした。従って有効出席者総数は409で, 定足数(正会員総数1399人の5分の1=280)を満たすことを確認した。次に署名人として宮路茂樹氏, 中川貴雄氏が選出された。

議事の経過および結果

1. 2000年度天文学会事業計画案(第1号議案)の説明を大石庶務理事が行った。質疑応答の後賛否を問い, 賛成多数で承認された。
2. 2000年度天文学会予算案(第2号議案)の説明を立松会計理事が行った。質疑応答の後賛否を問い, 賛成多数で承認された。
3. 池内評議員から国立大学の独立行政法人化に関する議論を行うことが提案され, 活発な意見交換を行い, 理事長と池内氏を中心として学会としての声明文を発表することとなった。(なお, 議案の内容は天文月報第92巻9月号をご参照下さい。) 大石雅寿(庶務理事)

〈懇親会〉

2日目午後6時30分から, 九州大学生協食堂を利用して行われ, 約250名の参加者があった。(株)エイ・イー・エス様からのご芳志もあり, 大変盛況であった。

(山岡 均)

〈天文教育フォーラム〉

初日の午後4時45分から6時30分過ぎまで, 天文教育普及研究会及び日本学術会議天文学研究連絡委員会との共催による天文教育フォーラム『古くて新しい問題: OD問題の現状~天文学会研究者人口調査から見えてくるもの~』が開催された。参加者は約200名で, この問題の関心の深さが伺えた。沢武文氏(愛知教育大)の人口調査報告, 観山正見氏(国立天文台), 今井裕氏(国立天文台水沢), 池内了氏(名古屋大)の3名による若手, 教官, 学術会議というそれぞれの立場からの話題提供の後, 時間を30分延長するほど活発な意見交換が行われた。詳しくは天文教育フォーラム報告(天文月報92巻12号636ページ)を参照のこと。(沢 武文)

〈公開講演会〉

日本天文学会公開講演会『宇宙観の移り変わり-古代人の宇宙と現代人の宇宙-』が, 10月10日午後2時から5時まで, 九州大学六本松地区N110教室にて開催さ

れた。聴講者は110名ほどであった。講師及び講演題目は, 宮島一彦氏(同志社大学助教授)による「古墳の中の宇宙-キトラ天文図と中国の宇宙観-」, 池内了氏(名古屋大学教授)による「現代宇宙論の概観」であった。宮島氏の講演では, キトラ古墳の壁画や天文図の発見のときのビデオなど貴重な映像とともに, キトラ古墳の天文図の特徴をわかりやすく説明した後, 当時の宇宙観や, この天文図の原因がいつ頃どこで作られたのかといった疑問に対する考え方について説明された。池内氏の講演では, 簡単に宇宙観の歴史をたどった後, 現在我々が得ている最先端の宇宙像について, 最新の写真等を用いてわかりやすく説明された。それぞれの講演の後には質問時間をとり, 参加者からの質問を受けた。いずれも熱心な質問が相次ぎ, 時間の関係で質問を打ち切らなければならないほどであった。(沢 武文)

〈保育室〉

保育室は, ポスター会場のある学生会館の2Fの和室(6帖+15帖)に設置された。利用者は4家族6人, のべ人数では子供16人保育者7人と, これまでの最高を記録した。シッターさんの派遣は(株)アピカルに依頼した。備品の設置をはじめ, 九州大学の山岡さんの助力に感謝する。(加藤万里子)

年会期間中, ポスター会場の一部に展示コーナーを設け, 賛助会員の(株)ナガセ電子機器サービス様が冷却装置・真空装置を出品され, 関係者と打ち合わせもたれた。

(年会実行委員長: 吉川 真)

訂正

天文月報92巻11月号の1998年修士論文タイトル集の580ページの中に誤りがありました。お詫びして訂正致します。

稲田将一氏のタイトル

誤)

「U(N)Einstein-Yang-Mills-Dilaton系におけるブラックホール」
正)

「SU(N)Einstein-Yang-Mills-Dilaton系におけるブラックホール」

編集委員 上野宗孝(編集長), 大橋正健, 小野智子, 斎藤芳隆, 田村元秀, 土橋一仁, 内藤統也, 和田桂一
平成11年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円) 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
TEL: 0422-31-1359(事務室) / 0422-31-5488(月報・欧文編集) FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ <http://www.tenmon.or.jp/> 月報編集 e-mail: gpjimu@tenmon.or.jp